

リレートーク

紹介者



船津康次氏
トランスコスモス
取締役会長兼CEO



日高 信彦氏
ガートナー ジャパン
取締役社長

#157

「グローバルの時代に」

旅が好きだ。個人でも、どんな厳しい出張でも喜んで出かける。日本人と祖先を共通にする人々を訪ねるのも目的の一つ。真夏でも雪が降るハドソン湾岸にイヌイットやカナダ・インディアンを訪れたり、モンゴル系の人々が最後にたどり着いた南米最南端のフエゴ島に住むヤーガン族を訪ねたりしたこともある。弥生系の人々と祖先を共にする少数民族をベトナム北部、中国との国境沿いの山地を訪ね、谷から山頂まで続く棚田に感動した。車で1時間走っても緑の棚田は尽きなかった。

旅をすると常識が根本から揺さぶられる。美しいものに出会い感動する。毎日朝から晩まで新しい刺激を全身で浴びて、脳がフル回転する。その分だけ新しいことを学ぶ。面白くてたまらない。仕事でも多くの国の人々と、共に働いてきた。3カ国、5カ所にまたがる開発プロジェクトをリードしたこともある。今も私の同僚15名の出身国は7カ国になる。どのような国でも共有できる価値観があるとおのずから見えてきた。嘘はついてはいけなし、自分勝手な人は嫌われる。誠実に対応すれば誠実に応えてくれるし、友達になれば大切にしてくれる。理が立てば通るし、立たなければ通らない。

日本人のよさは多い。人に対する気配りが細やかで、相手を喜ばせることに全力を傾ける。目上の人を敬い、従う。自分の仕事に対する責任感が強く、仕事を超えたところまで気を配る。だから社会のシステムが機能するし、品質も高い。こんな国は日本以外にはなかった。この仕組みを各国に展開すれば、どの国の人も喜ぶだろう。今のところそれは目に見えて、誰でも簡単に理解できるものとどまっている。

他国の人々は日本の文化を共有していない。目に見えないものは理解できないが、見える化すれば理解できる。日本の暗黙知を形式知に変換し、誰にでも分かるようにすること。その上で標準化し、理の立たないことは変える努力をすることが肝要だ。例えば本社、支社で昇進の区別はしない、上下、国籍に関係なく誰でもが意見を述べ議論するようにする、失敗した人に再度機会を与える。福沢諭吉の「一身独立して一国独立す」をいまこそかみしめるときだと思う。

次回は 杉江 和男氏 (DIC 取締役社長執行役員) にご登場いただきます。